

インド宗教文化における

循環

の思想と表象

ヴィシュヌ信仰形成の諸相：
初期のクリシュナとヴィシュヌの
図像をめぐって

大木 舞

祖霊祭の儀軌とマントラにみる
もう一つの命の循環経路

虫賀 幹華

シヴァ教における地獄観：
『シヴァダルモータラ』

第7章の研究

高橋 健二

古代後期の
一神教伝統における循環論：
歴史的分析和比較考察

山城 貢司

2023 **2/21** 火

10:00 ~ 17:20

京都大学人文科学研究所
4階大会議室



参加無料

会場参加とオンライン参加、
どちらでも可

京都府で緊急事態宣言やそれに準ずる措置が発令された場合、
現地開催を取りやめ「オンラインのみ」での開催となります。

現地・オンラインどちらの参加希望者も事前登録をお願いします。

参加登録の締め切り日までに、下記のURLにアクセスし、申込フォームを入力・送信してください。
申し込みをされたメールアドレスに「現地開催の有・無」および「オンライン参加の方法」を通知します。

事前参加登録 締め切り日 **2/19** (日)

<https://onl.la/8JtRQLL>

こちらから登録できます ▶



【主催】 京都大学人文科学研究所共同研究班「インドにおける「循環的存在論」の形成—祭祀思想から哲学への発展を中心に」(班長：手嶋英貴)
【共催】 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「ヴェーダ文献における言語層の考察とそれを利用した文献年代推定プログラムの開発」(研究代表者：天野恭子 課題番号：21K00004)
基礎研究(B)「マイトラーヤニー・サンヒター研究の基礎資料(校訂本・翻訳)の完全整備」(研究代表者：天野恭子 課題番号：19H01192)
基礎研究(C)「中世インドにおける帰依思想の民衆化に関する思想的史的研究」(研究代表者：井田克征 課題番号：18K00058)
基礎研究(B)「ヴェーダからポスト・ヴェーダの宗教・文化の共通基盤と重層性の研究」(研究代表者：梶原三恵子 課題番号：17H02268)
基礎研究(C)「アームナヤマンジャリー」梵蔵バイリンガル写本に基づくインド密教注釈文献の研究」(研究代表者：菊谷竜太 課題番号：19K00055)
基礎研究(B)「ヴェーダとタントラの相互影響：南インド現地調査と文献調査に基づく総合的研究」(研究代表者：手嶋英貴 課題番号：19H01195)
基礎研究(C)「インドラとは何者か?：古代インドの英雄神に関する総合的研究」(研究代表者：堂山英次郎 課題番号：20K00051)
基礎研究(C)「インド古典から日本古典へのもう一つの道：東南アジアを経由する文学の流れを探る」(研究代表者：中村史 課題番号：21K00450)
基礎研究(C)「ヴェーダ祭式の祭官選任儀礼に見る古代インド階層社会の形成」(研究代表者：西村直子 課題番号：21K00046)
若手研究「後期不二元論学派における救済論体系の研究」(研究代表者：眞鍋智裕 課題番号：21K12843)

お問い合わせ：龍谷大学・手嶋 英貴
mail: a21016@mail.ryukoku.ac.jp

インド宗教文化における「循環」の思想と表象

2023 2月21日(火) 10:00~17:20

京都大学人文科学研究所

4階大会議室

京都市左京区吉田本町



▲詳しいアクセスはこちらから

参加無料

会場参加とオンライン参加、どちらでも可

京都府で緊急事態宣言やそれに準ずる措置が発令された場合、現地開催を取りやめ「オンラインのみ」での開催となります。

現地・オンラインどちらの参加希望者も事前登録をお願いします。

参加登録の締切り日までに、下記のURLにアクセスし、申込フォームを入力・送信してください。申し込みをされたメールアドレスに「現地開催の有・無」および「オンライン参加の方法」を通知します。

<https://onl.la/8JtRQLL>

事前参加登録 締め切り日 2/19(日)



▲こちらから登録できます

■ タイムテーブル

10:00	開会
10:00-10:30	手嶋 英貴 (導入説明)
10:30-11:30	大木 舞
11:30-13:00	昼休憩 (研究交流イベント「抜き刷りフェア」を開催予定)
13:00-14:00	虫賀 幹華
14:00-15:00	高橋 健二
15:00-15:10	小休憩
15:10-16:10	山城 貢司
16:10-16:30	指定討論者によるコメント 横地 優子・澤井 義次
16:30-17:10	ディスカッション
17:10-17:20	質疑

お問い合わせ

mail: a21016@mail.ryukoku.ac.jp

(龍谷大学・手嶋 英貴)



ヴィシュヌ信仰形成の諸相： 初期のクリシュナとヴィシュヌの図像をめぐって

大木 舞 (京都大学大学院・日本学術振興会特別研究員DC1)

天の軌道を循環する太陽の光線を神格化したとされるヴィシュヌは、概して円輪と棍棒と貝を持つ四臂の姿で表現される。このようなヴィシュヌの図像は如何に成立したか。美術資料と文献資料を併用しつつ、ヴィシュヌ信仰史の一端に迫る。

祖霊祭の儀軌とマントラにみる もう一つの命の循環経路

虫賀 幹華 (京都大学大学院・日本学術振興会特別研究員PD)

シュラウターストラから現代の手引書までの祖霊祭の記述における、団子を食べる過程とその意義づけを検討する。個人の業に基づく再生を説明する輪廻思想とは異なる、死者が生前の親族のもとに再生するという観念とその展開について分析する。

シヴァ教における地獄観： 『シヴァダルモッタラ』第7章の研究

高橋 健二 (東京大学大学院助教)

中世の宗教文献では、この世で罪を犯した者は死後、地獄で様々な責苦を味わい、またこの世に戻ってくるとされる。本発表では、『シヴァダルモッタラ』における地獄観やその死生観がシヴァ教の教義体系においてどのような意味をもつのかを検証する。

古代後期の一神教伝統における循環論： 歴史的 분석と比較考察

山城 貢司 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)

主として紀元後最初の500年の間に執筆されたユダヤ教とキリスト教の関連文献の分析を通じて、古代後期の一神教伝統における循環論の成立過程を(部分的に)再構成する。その上で、インドの諸宗教における循環論との比較を試みる。